

鳴門海峡を望む

太平洋より紀伊水道を北上すると淡路島にぶつかる。右にルートを操ると大阪湾へ。左に舵を操ると瀬戸内海へ通じる。そこには鳴門海峡があり四国徳島の鳴門市と兵庫県南あわじ市の間を、日本国内で最も早い潮の流れが見られ、それはまるで川のような不思議な感覚であった。

四国には本州と結ぶ橋が 3 本架けられている。ここはその内の 1 本で近畿地方への重要な交通の要として「大鳴門橋」が架かっていた。全長 1620 m の吊り橋は人間が造る偉大なる英知の結晶であるように思われる。その下には直径 15m にもなる「鳴門の渦潮」が見られ、その渦巻く波の迫力は自然が作り出すエネルギーの凄さを感じないわけにはおれなかった。

淡路島の南に福良港がある。その近くの小高い山の上に南淡路ロイヤルホテルがあった。20 年程前のオープニングセレモニーに招待を受けて以来の宿泊となった。朝早く目が覚めた私は大きな窓越しから、遠く大鳴門橋から鳴門海峡を望め、実に風光明媚な大パノラマのロケーションは見る者を圧倒させた。

ここの温泉は夜と朝 2 回入ったが、ゆったりと寛げる大浴場は日頃の疲れをほぐすには最適で満足のいくものであった。冬の寒さから解放され湯船に浸かりながら、生きている喜びを感じつつ日本人として生まれた感謝の気持ちがかみ上げてくるようであった。 撮影 2011 年冬



